

# 勝連村誌

目次

序  
自序  
村長 野原 昌常  
編者 福田 恒禎

**第一編 村誌概要**

第一章 先史時代	一
第一節 貝塚其他の遺跡	一
第二節 貝塚時代人の生活	七
第二章 部落時代	八
第三章 按司時代	一一
第一節 按司の発生と三山統一	一一
第二節 按司時代の勝連	一二
一 察度王と勝連	一五
二 浜川真鍋樽のこと	一七
三 阿麻和利	一八
附記	三二
第四章 王朝時代	三五
第一節 所管の変遷	三五
第二節 部落各説	四一
一 字南風原	四二
二 字平安名	四六
三 字内間	四八

**第二編 王朝時代の農民の生活**

第一章 身分制	六八
第一節 身分の種別	六八
第二節 身分表示の手段	六九
第三節 身分と役職	七〇
第四節 身分による色々な制限	七一
第五節 田舎百姓に対する諸制限	七一
一 住所	七一
二 職業	七一
三 屋敷及び家屋	七一
四 衣服	七二
五 履き物その他	七二
六 墓	七五
第二章 税制	七七
第一節 沿革大要	七七
第二節 田舎百姓の負担	七八
一 王府への上納	七八
二 薩摩への貢租	七八
三 地頭おえか人の知行役棒	七九
四 夫役銭	八一
五 手形入	八一
四 字平敷屋	四九
五 字 浜	五二
六 字比嘉	五四
七 字津堅	五六

六	冊封	．．．．．	八二	第五節 内法	．．．．．	一〇三
七	江戸上り	．．．．．	八五	一 各村取締の部	．．．．．	一〇四
八	王世子の薩摩滞留及諸使節の上国費	．．．．．	八六	二 田、畑、屋敷、山野取締の部	．．．．．	一〇四
九	役人の不正搾取	．．．．．	八六	三 貢租及公費取締の部	．．．．．	一〇四
第三節	百姓の身売	．．．．．	八六	四 所俗取締の部	．．．．．	一〇五
第三章	土地制度	．．．．．	九〇	五 諸取締の部	．．．．．	一〇六
第一節	地割	．．．．．	九一	六 砂糖製造並密売取締の部	．．．．．	一〇六
一	地割りをなすべき土地の種類	．．．．．	九一	七 杣山取締の部	．．．．．	一〇六
二	地割更新の年限	．．．．．	九一	八 遊興取締の部	．．．．．	一〇七
三	配当を受くべきもの及其意向の変遷	．．．．．	九二	第六節 公告	．．．．．	一〇七
四	地割上の「一地」の組成法	．．．．．	九二	第七節 會計	．．．．．	一〇七
五	地割の方法	．．．．．	九三	第八節 予算協議会	．．．．．	一〇九
第二節	百姓地売買に関する取締の事	．．．．．	九四	第九節 農村の指導監督原山勝負	．．．．．	一一〇
第三節	勝連の地割	．．．．．	九五	一 田地奉行の令達	．．．．．	一一〇
第四節	土地整理	．．．．．	九六	二 原山勝負	．．．．．	一一二
第四章	行政	．．．．．	九七	三 終戦後の勸業施設	．．．．．	一一二
第一節	機構	．．．．．	九八	第一〇節 明治三十年より終戦まで	．．．．．	一一九
第二節	職務権限	．．．．．	一〇〇	第一一節 終戦直後の世相及行政の推移	．．．．．	一二三
第三節	選任、資格、昇級順序	．．．．．	一〇〇	回顧四十年	．．．．．	一二八
第四節	職務規程	．．．．．	一〇一	第五章 日常生活の変遷	．．．．．	一三六
一	番毎方	．．．．．	一〇一	第一節 食生活	．．．．．	一三六
二	蔵当方	．．．．．	一〇一	第二節 衣生活	．．．．．	一四三
三	耕作当方	．．．．．	一〇一	第三節 住生活	．．．．．	一四六
四	山当方	．．．．．	一〇二	第六章 社会生活の変遷	．．．．．	一五〇
五	札改方	．．．．．	一〇二	第一節 通過儀礼	．．．．．	一五〇
六	掟に於て取扱の事項	．．．．．	一〇三	一 出産と育児	．．．．．	一五三



第三章 衛生	二八三
--------	-----

## 第五編 交通

第一章 陸上交通	二八七
第一節 徒歩時代	二八七
第二節 馬車時代	二八八
第三節 自動車時代	二八八
第二章 海上交通	二八九
第一節 古代	二八九
第二節 近代	二九〇
第三章 通信	二九一

## 第六編 産業

第一章 農業	二九五
第二章 水産業	三〇〇
第三章 特産品	三〇二
第一節 トラバーチン	三〇二
第二節 平敷屋のトラバーチンに就いて	三〇四

## 第七編 移民編

第一章 海外移民	三〇八
第一節 布哇	三〇八
第二節 ペルー	三〇九
第三節 ブラジル	三一〇
第四節 アルゼンチン	三一三
第五節 亜国平安名の根人吉浜加那	三一六

## 第八編 文化

第一章 おもろ	三二一
第二章 歌謡	三二六
第三章 村踊	三四四
第四章 子供の遊び	三四八

## 第九編 口碑伝説

一 カッチンバーマー	三五五
二 津堅幸良小	三六〇
三 津堅赤人	三六二
四 津堅大根の元祖松根亀翁	三六三

## 第一〇編 表彰者

### 第一編 大東亜戦争と勝連村

一 宿直日誌抜	三七三
二 義勇隊及警防団の解散	三七九
三 津堅義勇隊の奮戦	三八〇

### 第二編 農業協同組合

### 第一三編 雑

一 模合	三八五
二 徴兵令施行	三八七



勝連村誌

(頒価 三弗)

一九六六年三月三十一日 印刷  
一九六六年四月一日 発行

編集者

福田 恒禎

発行者  
勝連村帳

野田 昌常

発行所

勝連村役所

印刷

大同印刷工業株式会社  
儀武 息勇

沖繩南風原村字宮平九番地  
電話 (2)一七八九〇

増刷

(株) 丸正印刷社  
那覇市国場三四九一三  
電話 (五四) 八四八四

# 勝連町史 二

目次

**序 章**

勝連町章、町花、町木、町花木	一
勝連町歌	三
勝連町役場と町三役	六
のびゆく勝連町の全景	七
勝連町(村)役場の移り変り	八
町史発刊のことば	十
町史発刊にあたって	十二
編集員長	十三
勝連町長	東門松永
吉野勇吉	

**凡 例**

凡例	十五
----	----

**第一章 行政**

一、勝連村(町)の現況	十七
二、勝連村(町)の基本構想	十九
三、勝連村(町)の選挙	七九
四、各庁舎及び施設	一〇〇
五、与勝両村の合併問題	一〇一
六、町政への移行	一四七
(一) 公印の系譜	一五五
七、町役場が新庁舎へ移転	一七二
八、区長の事務委託要綱等について	一八〇
	一九九

**第二章 議会**

九、各種団体	二〇三
十、町三役の再選	二一九
十一、選挙管理委員の紹介	二二九
十二、町三役就退年月表	二三〇

一、勝連町議会	二三一
二、条例・規則	二三三
三、議会だより	二三四
四、負担を公平に	二四三
五、歴代村(町)議会正副議長就退年月表	三一〇
	三一二

**第三章 部落各説**

一、字南風原	三一三
二、字平安名	三一五
三、字内間	三一九
四、字平敷屋	三三四
五、字津堅	三四〇
六、字浜	三六〇
七、字比嘉	三六九
八、浮原事件の調停	三七六
九、各字別の小字名及び小字図	三八〇
	三八一

**第四章 産業**

一、農業委員会	三八九
(一) 農業委員会だより	三九一
	四〇〇

二、農村総合整備村に選定	四〇九	(六) 浜中学校	五四八
三、津堅島土地改良事業の概要	四三七	(七) 与勝中学校	五五四
四、畜産業	四四六	(八) 与勝第二中学校	五五八
五、水産業	四五六	(九) 与勝高等学校	五七〇
(一) 南原漁業協同組合	四五六	(十) 公有財産の取得	五八四
(二) 勝連漁業協同組合	四五六	五、小学校で遊戯の始まり	五八四
(三) 各漁港施設	四六〇	六、学校給食の概要	五八五
(四) まき網	四六八	七、身長大幅な伸び	五八六
(五) 風の名	四六九	八、昭和五年度の学校保健調査	五八八
六、勝連村(町)の商工業	四六九	九、町育英会	五九三
七、事業所統計調査	四七三	(八) 野原兄弟から寄付	六〇二
八、置県後の産業政策	四八〇	十、社会教育委員会	六〇三
九、上杉県令の民情視察	四八〇	十一、社会教育振興大会	六〇七
十、尾崎三良・岩村通俊の沖繩視察	四八二	十二、勝連の社会教育	六〇八
十一、沖繩県の産業と生活	四八五		
<b>第五章 教育</b>			
一、与勝教育の沿革	四九五	<b>第六章 文化</b>	六四九
二、機構と予算	四九七	一、勝連城址	六五一
三、終戦直後の教育状況	四九九	二、築城工事の柱穴など発見	六五二
四、各小中学校、幼稚園、高等学校	五〇九	三、平敷屋朝敏の生涯	六六四
(一) 南原小学校	五一〇	四、内間村の証文	六七四
(二) 勝連小学校	五一〇	五、水戸藩廻船の漂流史料	六七六
(三) 平敷屋小学校	五一六	六、琉歌	六八七
(四) 津堅小中学校	五二五	七、ウスデーク	六九一
(五) 比嘉小学校	五三八	八、電灯生活	六九二
	五四二	九、復元された高倉	六九四
		十、ふいごの寄贈	六九七

十一、琉球処分後の新聞と出版	六九九
十二、沖縄方言	七〇〇
十三、山原スーツーマ	七一三
十四、思い出ひとくち話	七一五

### 第七章 表彰者

一、戦前の功労者	七一九
二、叙勲受賞者	七二一
三、村長・議員表彰者	七二八
四、表彰者	七三〇
五、山中元長官を名誉村民に推挙	七三一
	七三五

### 第八章 交通

一、通信	七三九
(一) 勝連郵便局	七四一
(二) 津堅簡易郵便局	七四二
(三) 電話の自動化	七四七
二、津堅島の会場交通の変遷	七四八
三、変り行く浜比嘉渡船	七五〇
四、ふるさとを語る	七五一

### 第九章 海外移民

一、海外移住者	七五三
二、布哇行移民の旅費明細	七五五
三、勝連町出身の大農場主	七五九
四、海外移民及其送金別	七六一

五、在留沖縄県人・人夫取締の嚆矢	七六一
六、海外移住家族会南米慰問報告書(東門松永)	七六二
七、ペルー町人会へ町旗贈る	七七〇

### 第十章 長寿を迎えられた方々の紹介

一、長寿者へ品物金円を授与す	七七一
二、中頭郡の長寿者	七七三
三、カジマヤー祝いを迎えられた方々	七七三
四、六年連続の最長寿県	七八四
五、平均寿命男女共降下	七八四
六、町長寿クラブ連合会	七八六

### 第十一章 日常生活生活の変遷

一、童名	七八九
二、としび	七九一
三、カジマヤー祝い	七九二
四、屋号と氏	七九四
五、屋号	七九五
六、紫微變駕	七九六
七、かまど	七九七
八、十干と十二支	七九七
九、ブーサー	七九八
十、ニーブク	七九九

### 第十二章 沖縄戦後

一、沖縄諮詢委員の設置	八〇一
	八〇三

二、占領軍入れ替る	八〇五
三、経済復興への布石	八〇五
四、群馬政府の発足	八〇六
五、群馬議会議員選挙	八〇七
六、臨時中央政府の設置	八〇七
七、立法院議員の選挙	八〇八
八、B円からドル時代へ	八一〇
九、任命主席	八一〇
十、主席公選	八一二
十一、戦後初の国政参加	八一二
十二、米軍占領後の解放要望地状況	八一三
十三、米統治下の長官	八四八

### 第十三章 沖繩復帰後

一、沖繩復帰について	八四九
二、ドルと円の交換	八五二
三、異常な物価高騰	八五一
(一) 復帰時に於ける村予算	八五二
(二) 為替差損について	八五三
(三) 佐藤ニクソン会談	八五四
(四) 自衛隊施設	八五五
(五) 町内主要米軍施設の使用実態	八五六
(六) 旧日本軍の接収用地	八五八
(七) 軍用地地主会	八六〇
(八) 知事選と県議選挙	八六三
(九) 交通方法の変更	八六四

十二、県の行政概説	八六七
十三、県政	八六七
十四、県経済	八六九
十五、県の人口	八七一
十六、国勢調査結果	八七三
十七、国の人口	八七五
十八、沖繩県の位置と人口・地形	八七七
十九、地形の特色	八七九
二十、五百円硬貨 第一号が誕生	八八一
二十一、県のシンボル	八八二
二十二、復帰後の県知事	八八二

### 第十四章 信仰生活

一、祖先崇拜の信仰とユタ	八八三
二、東御回り	八八五
(一) 斎場御嶽	八九六
(二) 受水走水	八九七
(三) 玉城城趾	八九七
(四) 知念杜城趾	八九八
(五) ヤハラヅカサと浜川御嶽	八九八

### 第十五章 農業協同組合

一、勝連町農業協同組合	九〇一
-------------	-----

### 第十六章 新聞集成

一、新聞資料について	九二一
(一) 新聞資料について	九二三

	第十七章 雑	九四五
	一、間切議会	九四七
	二、はじめての国政参加	九四八
	三、石眼當	九四九
	<b>第十八章 町勢要覽</b>	九五一
附 録	・ ・ ・ ・ ・	九九五
年 表	・ ・ ・ ・ ・	一〇三〇
編集を終えて	・ ・ ・ ・ ・	一〇七一
	町史編集員(事務局) 徳村安信	

# 勝連町史 二

昭和五十九年三月三十一日 発行

編集 勝連町史編集委員会

委員長 東門 松 永

発行 勝連町役場  
沖縄県勝連町字平安名三〇三三二

電話〇九八九七八一二二〇一

勝連町長 吉野 勇吉

印刷 (株)丸正印刷社

那覇市国場三四九一三  
電話〇九八八(五四)八四八四